

五分間も彼はシヤベラなかつた。

「何とか高橋君の氣持や、ああした態度は、私には好く解ると言つた。

NONO新吉は叫んだ。

南無妙法蓮華經。

南無阿彌陀佛。

南無ダ、

氣の抜けないビールの如く、聽衆は泡立たしく立ち上つた。

歸りかけた。

出口で二三人が新吉に詰めかけて来て『ダ、タ何んなものですか』とか聞いた。

『死にたい奴は死ぬ、俺はダダなんて知らないよ』

新吉はそさくさ電車通りへ出た。

福田正夫と尾瀬は碓氷の家へ行つて新吉は宿屋へ行つた。

佐野袈裟美が来てゐた。